【課外活動、社会活動等】　　医学系研究科博士課程２年　小杉 穂高

受賞した学業／課外活動の概要

ウガンダにおけるエボラ対策と水・衛生分野での卓越した国連ボランティア活動

小杉氏は博士課程の研究に従事する傍ら、2018 年 4 月より 2019 年 12 月まで国連ボランティアとして UNICEF ウガンダへ派遣され、エボラ感染拡大、難民キャンプへの水供給、コミュニティでのトイレ普及等の水と衛生分野での活動に従事した。

2018 年 8 月のコンゴ民主共和国でのエボラ流行以降、同氏はウガンダ国内への感染拡大防止を目的として、地方政府、国際機関、NGO との現場調整、医療従事者を対象にした感染予防とコントロール(IPC)に関するトレーニング、学校やコミュニティでの手洗いの啓発等のプログラムの立案から実施までを主導した。これまで、コンゴ国境沿いの検疫所や病院等で働く 1000 名以上の医療従事者を対象にトレーニングを実施した。2019 年 8 月及び 10 月にウガンダにてエボラ感染者が確認された際には、県保健チームの水・衛生分野の対応を最前線でサポートするなど、ウガンダ国内における感染拡大防止に貢献した。

コンゴ国境の医療施設にて

また、コミュニティ主導の衛生改善を目的とする Community-Led Total Sanitation (CLTS) のウガンダでの普及に向け、ウガンダ西部 18 県の保健行政官とコミュニティヘルスワーカーの能力向上やモニタリングに従事した。この活動の結果、住民主導の衛生改善に向けた話し合いやトイレの建設が行われ、計 492 のコミュニティが野外排泄根絶を達成した。ウガンダでは、排泄物に汚染された飲食物や不衛生な環境に起因するコレラなどの下痢性疾患や肺炎が原因で多くの子どもたちが命を落としている。この活動はこれらの疾患を予防し、ウガンダの人々の健康に大きく寄与するものである。同氏の活動は、ウガンダにおける成功事例として Forbes などの雑誌で紹介され、今後、他地域への拡大が予定されている。

コレラ対応で訪れた村の子ども達と

小杉氏は上記ボランティア活動と並行して、ウガンダをフィールドに博士論文執筆に向けたデータ収集を実施している他、国際ジャーナルに論文を投稿するなど精力的に研究を進めている。ボランティア活動と研究の両立をしている同氏の取り組みは、本学の学生の模範となりうるものとして高く評価された。

総長賞受賞決定についてコメント

今回の受賞にあたり、応募を勧めて頂いた指導教官の神馬征峰教授及び Ken I.C. Ong 助教に深く感謝しております。ウガンダでのボランティア経験は、国際保健の実務に必要なスキルを身につけるだけでなく、病院やコミュニティなど最前線でエボラ感染対策を担う人々、県保健チームの同僚、世界中から集まった国際保健の専門家など多くの仲間と出会い、学ぶことのできる貴重な機会となりました。新型コロナウイルス感染症が世界中で深刻化する中、コンゴでは 1 年半以上に渡ったエボラの流行が終息に向かいつつあります。今後も、世界に存在する様々な健康格差の是正に向けて、国際保健の現場での経験を分析し、論文として発信できる、実践と研究を結び付けつけることのできる人材として成長していきたいと思います。

【課外活動、社会活動等】

医学系研究科博士課程 2 年　小杉 穂高